

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	学際的グローバリゼーション研究における多文化理解に資する越境的対話と交流の推進				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	石井 由香
	研究協力者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野 みちよ
		所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	高畑 幸
		所属・職名	国際関係学研究科・准教授	氏名	孫 暁剛
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	坪田 光平
		所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	二羽 泰子
		所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	山本 健介
		所属・職名	国際関係学部・助教	氏名	村橋 勲
		所属・職名	国際関係学研究科・助教	氏名	吉田 航太
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	石井 由香

講演題目
学際的グローバリゼーション研究における多文化理解に資する越境的対話と交流の推進
研究の目的、成果及び今後の展望
本研究は、本学の理念・目標及び、教育方針に合致する「多文化共生を視野に入れた社会・文化・言語を中心とした研究」であり、静岡県多文化共生推進基本条例、静岡市多文化共生のまち推進条例の趣旨に沿って実施した研究である。異なる文化を持つ国や集団の間の紛争、衝突が世界各地で起こり、国際情勢が一層不安定化しつつあるなか、多文化共生の前提となる多文化理解、「他者」理解のための地道な研究と実践が今まさに必要とされている。そして数多くの研究成果、情報、実践の試みが対面およびオンラインで共有され、単なる知識の伝達を越えて越境的な対話と交流が盛んになっている。学際的グローバリゼーション研究において、多文化理解をさらに深めていくために、研究しその知見を発信するだけでなく、双方向のコミュニケーションに基づく越境的な対話と交流を積極的に行い、研究と実践の両方を推進するとともに今後のさらなる試みへの示唆を得ることができた。主な成果は次の通りである。 【グローバル・スタディーズ研究センター(CEGLOS)主催企画】 1. 「自著を語る」シリーズ『死とオベリスクー墓石のグローバル・ヒストリー』講演者：富澤かな（東京大学大学院人文社会系研究科准教授／CEGLOS 客員研究員）石井企画（10月） 2. 特別講演会「ネオ・ユーラシア主義：ロシアはなぜリベラル国際秩序に背を向けたか」講演者：浜由樹子（東京都立大学法学部教授）石井企画（1月） 3. 特別講演会「Voices of Filipinos in Japan: Language, Work, Identity and Inclusion」講演者：マリア・ロザリオ（チェリー）・ピケロ＝バレスカス（Professional Lecturer, University of the Philippines Cebu／CEGLOS 客員研究員）米野企画（3月） 4. 映画企画「映画で知ろう！移民・難民」（3回開催）「難民アスリート、逆境からの挑戦」村橋企画（10月）、「敵視される人びと」石井企画（11月）、「Our Life 2」村橋企画（11月） 5. ドキュメンタリー映画上映会「イスラエル主義」（山本企画）（8月） 【グローバル・スタディーズ研究センター後援企画】 1. 情報交換会「4K映像に見る1930年代フィリピンの日本製品—大阪貿易『広告の実験』2—」（7月） 2. 研究会「グローバルヒストリー—粹踏み・研究動向・教育—」（11月）